

不妊治療中のカップルに対するパートナーシップ支援プログラムの必要性
精神的苦悩が少なく治療継続していただくために
東京医療保健大学
朝澤恭子

不妊治療中のカップルは、男女の認識の違いや意思疎通の図られにくい状況が混在し、治療長期化に伴い関係は徐々に悪化すると国内外で報告されています。不妊治療を受ける患者のカップル支援に焦点化したケアの展開は、僅かであり十分な効果が証明されておらず、心理的介入による精神的苦悩への影響も適切に把握されておられません。

この現状を踏まえて、生殖医療においてカップルの負担が少なく治療継続できるように、男女双方へのパートナーシップ支援が必要であると考えました。

<研究目的>

本研究の目的は、不妊治療中のカップルに対して、パートナーシップ支援プログラムを実施し、パートナーシップ向上、QOL維持、精神的苦悩の緩和、パートナーとの関係満足度の向上に効果があるかを検証することでした。

<研究方法>

不妊治療中の患者様（カップル）を、パートナーシップ支援プログラムを受ける介入グループ 76 組、受けない比較グループ 83 組の 2 グループに設定しました。介入グループに約 1 時間のプログラムを受講してもらい、両グループに受講前と受講 4 週間後にアンケート調査のご協力をいただきました。プログラムは不妊治療を受けるための情報提供を中心としたレクチャーと参加型演習でした。

<結果>

318 名（159 カップル）の参加を得て、有効回答である 311 部のデータを分析しました。

その結果、プログラムを受けたグループのパートナーシップは高まり、このグループの女性の精神的苦悩は軽減しました。

<結論>

パートナーシップ支援プログラムは、不妊治療中のカップルに対してパートナーシップの向上に有効でした。男性の精神的苦悩には変化がありませんでしたが、女性の精神的苦悩の改善に効果がありました。

不妊治療を受けるカップルにパートナーシップ支援が行われ、患者様の負担が少なく治療継続できることを願っております。